

備える。

準備、予備、整備、装備、守備、警備、
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備、常備、完備、不備、具備、兼備、
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品、設備、備蓄、備員、備考、備忘、
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシク

no. **24**

かわさき
防災広報紙

昭和61年7月31日発行
 編集・発行：
 川崎市土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.(044)200-2111内線2841



9月1日は「防災の日」

まず、火！

「いかにいかにキーキー」

6月24日午前11時53分に起きた、関東地方を中心とする強い地震は、東京、横浜で震度4、川崎市内でも震度4相当の揺れでした。

「ちよつど昼食の準備で、火を使っていた」

…そんな方も、多かつたのではないのでしょうか。

「ググツときたたら、火の始末」

地震直後に、消防局が行った1000人電話アンケートによると、「火を使っていた」人32%、そのうち97%の方が、火の始末をしています。あなたは、そのとき、すばやく火の始末ができましたか？

「くりかえし、備える」

大正12年9月1日に起きた関東大地震も、午前11時58分で、今回同様、家庭では昼食の準備中だったため、火災が同時に多発し、火災による死者は、地震自体による死者の数十倍に及んだのです。地震時に火を出さない、火が出たら初期のうちに消してしまうこと—これが、関東大地震の「最大の教訓」です。

「まず、火！」

そのためには、ひとりひとりが、どんな小さな地震と思っても、「地震！」と感じたら、すばやく火の始末をする習慣を身につけることが大切です。

「たいへんたいへん、なわを」

来たる9月1日「防災の日」に、市内各所で行われる防災訓練に、積極的に参加しましょう。

1986 8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
 ★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★

9月1日は、「防災の日」です

9月1日に行われる防災訓練

午前9時
10分

《東海地震》の発生が「予知されたとき」の訓練

★警戒宣言の伝達—消防車やパトカーなどが一斉に伝達のサイレン（45秒鳴らして、15秒休みを3回繰り返す）を鳴らします。

★混乱防止訓練—川崎駅周辺で、混乱を防止するため、交通規制、バス、タクシー乗り場の一時移転を行います。
★学校、幼稚園の生徒等の引き取り訓練を行います。（具体的には、各学校の指示によります）

午前10時

《関東大地震》と同じく「地震が起きたとき」の訓練

★中央会場訓練—宮前区梶ヶ谷（国鉄梶ヶ谷貨物ターミナル駅構内）
★地域ぐるみの訓練、街角防災訓練、地震防災一声運動



初期消火訓練(宮前区)

救護訓練(幸区)

避難誘導訓練(中原区)

《地震防災一声運動》

地震が起こったとき、自分の家は大丈夫でも、となり近所から火が出れば、やがては自分の家にも燃え移る危険があります。となり近所の安全はわが家の安全につながります。

揺れがおさまり、家の中の安全を確認したら、となり近所で声をかけあいましょう。

「火はだいじょうぶですか？」「けが人はありませんか？」



9月1日(月)の午前10時に、今年も市内一斉に地震防災一声運動を行います。

ふだんから、備える 防災のチェックポイント

次の4つは毎月15日の市民地震防災デーのチェックポイントです。防災の日にも確かめておきましょう。

- 1 火の元の安全を確かめる。
- 2 家具などが倒れないように点検する。
- 3 わが家の備蓄品・非常持出品を確かめる。
- 4 家族みんなで防災について話し合う。

そのとき、その場でレッスン④

「地震のとき、海辺にいたら」

●津波のおそれがあるので、直ちに高い所へ避難する。（注意報・警報の伝達が間に合わないことがあります）
●情報を確認し、係員の指示に従う。

●津波注意報・警報の解除など津波がないことを確認するまで、海岸にもどらなす。

※震度が小さくても、津波が小さいとは限らないので、注意が必要です。

体験談 その24

日本海中部地震「能代市の災害記録」から 能代市提供

悲しみを超えいま新たな出発を決意 奈良ひめ子さん

「びっくりします」

日本海中部地震—生涯忘れられないことのできないこの七文字の中に私の夫は消えてしまいました。

昭和58年5月26日朝7時。いつてきますと、釣具を肩に元気に出かけた夫の姿が忘れられません。たぐいすの音もなく無言の帰宅をしたのが津波発生の日から13日目。信じられなかった夫の死は現実のものとなってしまいました。

発生から2、3日はまだどこかに生きていて、ケガをして動けないでいるのでは...と心配し、一週間たち10日過ぎると、もう遺体さえもどらないのでは...と思いながら海岸を探し歩きました。海という大きな障害物の前では手出しもできず、遠くに見える流木や漂流物までが人体に見え、そこまでかけよりにくても泳ぎの得意な自分には何もできず、何度もはがゆい思いをしました。

たぐいすはくとも生きてさえ帰ってくれたら...という、みんなの願いもむなしく夫は冷たくなってしまったが、半分はあきらめかけていた矢先だ

ただけに、見つけていただき、家に連れてくるのができ本当によかったと思っております。

あれから、早、6ヵ月になります。夢中でかけた自分が今、こうして悲しみを乗り越え、笑顔のもどりつつあるわが家で、あの日のことをふり返ることができるのも周囲の皆様があなたたく見守って下さり、はげましてくるおかげです。

年が明ければ娘は一年生。息子も幼稚園に入り、わが家にも新しい光がさしこみはじめています。私も子供達に負けないように一生けん命勉強し、お世話になった皆様にも少しでもお恩がえしができるように力いっぱい生きていこうと思っています。

※日本海中部地震
昭和58年5月26日 午後0時0分18秒発生
震源：能代沖00km、深さ10km
マグニチュード7.7
死者100人 負傷者1374人（一は津波によるもの）

ボカイくん 高井研二編



小学生も、備える

南部防災センターは、市内の小学校3・4年生による施設見学及び体験が大変多くなっています。大型バスを利用して、遠くは麻生区の金程などから6月だけでも、約1100名の小学生たちが訪れています。小学生たちは、映画「地震とわたしたち」などを見て、熱心に災害に対する学習を深め、また「地震体験装置」で大声をあげ、関東大震災の地震を体験しています。

南部防災センターでは、小中学生生徒の夏休みの防災学習会、各種団体など、より多くの方々か、「防災知識を備える」ため、この施設を活用して下さることを願っています。

- 当センターの見学所要時間は
- 施設見学（建物、備蓄庫等）＝約20分
 - 映画＝1本約20分～30分
 - 地震体験装置＝80名 約1時間
 - 消火訓練装置＝60名 約1時間（上記所要時間を参考に、見学時間をご相談ください）

●ご利用・ご見学のお問い合わせは
川崎市川崎区小田7-3-1
川崎市南部防災センター
TEL=355-2175
交通=国鉄川崎駅東口9番バス乗り場
臨港バス 富士電機「小田小学校前」下車 徒歩6分